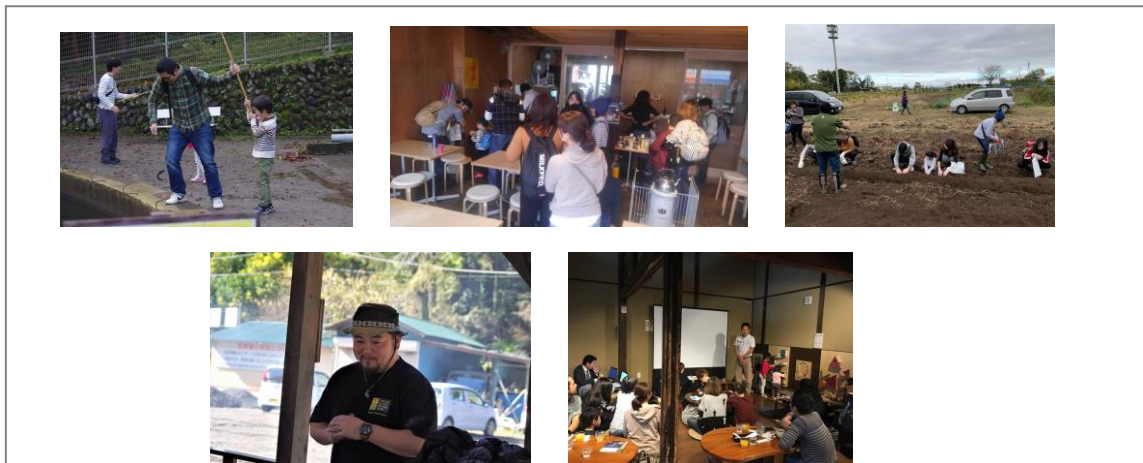


事業名 青梅の魅力発信！人と人がつながる！まちとつながる旅



- 1 実施団体 転勤ノオト青梅
- 2 担当課 農林課 秘書広報課
- 3 実施時期 令和元年 11 月 24 日（日）
- 4 参加者 29 名（21 名+講師 3 名+スタッフ 3 名+市職員 2 名）
- 5 実施場所 奥多摩フィッシングセンター、青梅駅周辺、榎戸園畑、
カフェむく

6 事業の目的

人と人がつながれるコミュニティを作り、引っ越してきた人・引っ越す人が青梅に住もうと思う移住コミュニティを作る。

ここから、

- ① 転勤者・移住者は職を求めてくる。青梅の産業人材を増やす。例）農家さんの収穫時期のみ手伝ってくれるママチームを作り、仕事を手伝ってもらったことがある。
- ② 青梅外の方も参加者として呼ぶことで、青梅に引っ越してこようかな、青梅に関わろうかなという関係人口を増やすことにつながる。

③ 既に引っ越してきた人にとっては、横のつながりを構築できるきっかけとなる。

7 役割分担

- ・ 団体の役割

会場予定場所、講師の依頼調整など

参加者募集の広報活動

当日の事業の円滑な運営

- ・ 担当課の役割

<秘書広報課> 広報おうめ掲載、市内募集取りまとめ

<農林課> 当日のイベント運営補助

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

青梅市広報の応募が5組13名に対し、SNSでの直接応募が12組25名。直接応募のうち、市外からの応募者が5組となり、SNSを使って発信した手ごたえを感じた。

実際に青梅に移住して地元コミュニティとの繋がりを求めている移住者と、繋がる事が出来た。市外の参加者には青梅市の新たな魅力を発信出来たことにより、人口増加へと繋がる関係人口を増やす事が出来た。

9 目標達成

事業の目標：青梅での生活に希望が持てた人、青梅に引っ越してこよ
うと思う人が増加。現在の青梅市の人口減に対しての
増加見込み、農業人口への増加見込める。

目標の達成具合：

SNS、HP記事（募集、報告）、制作物を通して市内・市外共に青梅の魅力を発信できた。アンケート結果より市外在住者は青梅再訪の期待がもてること、青梅在住者は、青梅の魅力を再発見したこと、青梅に移住してきた人は、こういったつながりを持てる機会を求めていたことがわかった。こういった活動を続けることによって、青梅市の人口減に歯止めをかけ、青

梅や農業に関心を高めることができると確信した。

※アンケート結果は別紙参照。

10 事業の実施内容

青梅市民、青梅への移住に興味のある市外の方を対象にバスツアーによる青梅市の農水産業の魅力を紹介。

奥多摩フィッシングセンターでのマス釣り体験、青梅駅近辺の散策（新規出店商店を見学）、榎戸園畑の芋ほり、カフェむくでの青梅の住宅事情案内。講師として、市内事業者コーキ屋濱中氏、榎戸園榎戸氏、転勤ノオト全国代表松田氏に青梅の魅力発信と転勤者移住者と市民との交流活動やサポートの事例などをお話いただき、参加者と交流を行った。

実施後、Web上に報告記事を掲載。当初、イベント報告だけの予定だったが、上段：イベント報告、中段：訪問した先の店舗情報、下段：青梅市の情報リンクを掲載するように修正し公開した。

<https://tenkin-note.com/content/1462>

Web上にて青梅の情報発信を行うとともに、その記事のリンク先を印刷したカードを製作した。

表面には記事のリンク先にとび2次元バーコードを印刷。容易に閲覧できるように工夫した。裏面は青梅に興味を持ってもらった際に見てもらいたい情報収集先として、「移住」(青梅市HP)「観光」(おうめ観光ガイドHP)「創業」(おうめ創業支援センター Begin)「暮らし」(OMEGOCOTI)のリンク先2次元バーコードを入れ込んだ。



こちらのカードを広報部を通じて 200 部程度を青梅市に転入してきた方へ、100 部を市内の市民センター各所へ配布した。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	3	3
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

市外への青梅のアピールや、移住者などへのサポートに対する要望はあると今回のツアーで認識できた。今後はどのようにつなげていくかが課題である。今回はターゲットを絞らず広く募集したが、今後はターゲットを絞って再訪を促す企画や移住者へのサポート企画なども考えるべきと感じた。引き続き、行政や地域団体、企業などと連携しながら、青梅市の人口減に対しての施策を打っていきたいと考える。

そのために、地域の人に今年の成果を伝えながら、まわっていきたい。

1 回目の開催にご尽力いただき、東京都内を中心に多くの方からお問い合わせをいただいたのは関わっていただいた皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

13 その他

他自治体においても同じ仕組みで事業実施をしている。情報交換をしながら、地域に求められているコミュニティ造成に力を入れていきたい。

また、転勤や移住できた奥さんたちにも暮らしや仕事を支援ができる団体でもありたいと思う。